

## 道路情報表示板の表示と運用

横浜国道事務所 交通対策課 ○小野寺孝文 皆川智子

### 1. はじめに

横浜国道事務所は神奈川県内の国道（国道1号、15号、16号、246号、357号、409号）を管理し、道路管理総延長は259.4kmに及ぶ。

管理区間上の道路情報表示板（以下情報板）は令和4年1月時点で47基設置されている。情報板における道路情報提供においては、道路利用者の安全と利便性を確保することが第一の目的であり、事故・災害や工事による車線規制や気象情報などを主に表示しているが、最近はそれに限らず様々な情報（PR等）の表示依頼も多い。

### 2. 情報板の種類

横浜国道事務所では以下の3種類を運用している。

#### ①HL-1型

表示可能文字数は5文字×4段＝20文字。表示パターンは2面。

#### ②NHL-3型

表示可能文字数は10文字×3段＝30文字。表示パターンは2面。

#### ③HLM-3型

表示可能文字数は10文字×3段＝30文字。表示パターンは2面。

文字色の種類が豊富な、比較的新しい種類である。



図1 HL-1型



図2 NHL-3型



図3 HLM-3型

### 3. 情報板表示の区分分け

情報板の表示内容は以下の9種類に分けられる。

- ①地震発生情報、津波警報発令情報
- ②通行止めなどの交通規制に関する情報
- ③チェーン等装着に関する情報
- ④交通規制・渋滞等に係る情報
- ⑤自然渋滞・工事に係る情報

- ⑥気象・交通事故等に係る注意・警戒情報
- ⑦予告
- ⑧工事規制無し等に係る情報
- ⑨道路交通に関する標語・広報・キャンペーン

#### 4. 表示における課題

2021年に開催された東京オリンピック・パラリンピック期間前後においては、東京オリンピック・パラリンピック開催にともなう表示、関連した料金施策の広報、同時期に横浜国道管内で発生した災害（大雨、国道246号松田惣領の崩落）、新型コロナ対策等の広報が重なり、通常時における表示とともに同時対応を行った。

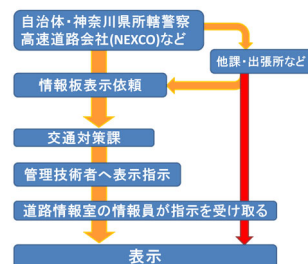


図4 表示までのフロー図

情報板表示の際の指示フローを図4に示す。

情報板には最大2面までしか表示できないため、表示する内容の取捨選択を余儀なくされ、依頼者との再調整や道路情報室への修正指示など非常に煩雑な作業となった。その際に、道路情報室への指示が頻回となった結果、作業の混乱を招き、表示指示や作業の手戻りなどを引き起こす結果となった。

#### 5. 問題点に対する対応方針・具体案

課題を解決するために、情報板表示指示において必要な事項をまとめ、道路情報板表示記録書のひな形を作成し、運用を開始した。

作成にあたっては、以下の5点を明確にし、道路管理者として記録及び事例を整理することを心がけた。

- ①情報の種類②表示可能な文字数③表示可能なパターン数④情報板の位置⑤表示期間

#### 6. 今後の展望

道路情報板表示記録書のひな形を作成し統一することで、表示指示の際の資料作成を省力化することができた。記録書を添付することで依頼者及び道路情報室との共有が図ることができ、指示内容の漏れや、やりとりの時間が減少した。

道路情報板表示業務のさらなる自動化・省力化を目指し、記録書の入力をさらに簡易及び自動化することで業務の負担軽減に寄与したい。